

学校概要

創立 40 周年	学校長 持丸 隆一	副校長 鈴木 浩	学期 2 学期制	児童・生徒数 322 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2			主な関係校: 中和中学校、泉が丘中学校、和泉小学校、中和小学校、下和泉小学校、中和南小学校	

学校教育目標

○あいさつ(地域社会の一員としての自覚・礼儀・感謝・コミュニケーション)【公】【開】
 ○ともだち(生命尊重・共生・人権)【徳】
 ○チャレンジ(自己肯定感・学力向上・体力向上)【知】【体】
 ○やくそく(規範意識・人の話を聞く・時間を守る・公共心・食育)【徳】

学校の特徴

□緑地保存の樹木と住宅に囲まれた静かな地域にある学校であり、地域には「古橋の森」や「かまくら道」の一部が残り、また、学区内は新興住宅や古くからの農家もあり、生活科や社会科、横浜の時間の学習などには大変適している。
 □平成21年度設立の学校運営協議会を中心として、地域や保護者の参画と理解、協力を基調とした学校経営を進めている。
 ■学習状況調査等の結果からは、学力と子どもたちの自尊感情に課題があり、この3年間で改善していく必要がある。
 ■あいさつをはじめとする基本的な社会的スキルや授業中の学習規律が身に付いていない子どもたちも多く、この3年間で改善していく必要がある。

学校経営中期取組目標

○「楽しい授業」「分かる授業」を展開するために、教師の指導技術を向上させ、学習規律を確立し、課題解決に向けて粘り強く積極的に自ら学び続ける子どもを育て、学力向上を目指します。【知】○保護者・地域社会との連携のもと、物事の善悪をきちんと判断し、社会のルールを守る規範意識や礼儀を大切に育て、相手を思いやり、尊重する心や態度を育てます。【徳】○保護者と協力し、心と体の健康に向かって望ましい生活習慣を身に付け、自ら健康づくりに取り組む子を育てます。【体】○共に生きようとする心を育てるために、学校運営協議会との一層の連携を図り、地域に愛着をもち、将来的に地域の担い手ともなる子を育てます。【公】○「答えのない問題」に最善解を導く総合的な力を養い、自分の未来に夢と希望をもち、力強く生きようとする子どもを育てます。【開】

小中一貫教育の取組

中和田中	ブロック	中和田中、中和田小、和泉小、上飯田小
9年間で育てる子ども像	○自ら進んで挨拶ができる児童・生徒 ○地域の一員として行動できる児童・生徒	
自校の具体的取組	○ブロック各校との日常的な連携と交流を図り、中期取組目標の実現を目指します。 ・合同授業研究会の実施 ・学校行事等を通じた児童生徒間交流の実施 ・児童生徒指導、9年間を通じた教育課程等にかかる定期的な連絡会議の実施 ・教員間の相互交流と合同研修会等の実施	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	「読む・書く・計算」といった学習の基礎基本の定着を図り、子どもたちが自分や仲間と向き合い、深い学びのある授業を目指し、日々の授業改善に取り組む。	①朝のチャレンジタイムを活用して、学力の基礎・基本の定着を図ります。②重点研究を中心に、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して、研修を充実し、全職員で授業力の改善に取り組めます。③子どもたちが知識や経験を繋げて物事を理解したり、考えたり、疑問をもったりする過程を大切にした学習の充実を図ります。
豊かな心	人間関係等の集団生活の在り方や公衆道徳等についての望ましい体験を積めるようキャリア教育推進校として、特別活動(特に学校行事)等の教育課程の内容改善を図る。	①あいさつがあふれる学校をめざすとともに、社会のマナーを身に付けられるようにします。②宿泊体験学習などを通して、協力することや役割を担うことの大切さを学ばせていきます。③道徳の学習の時間を要として、自分を知り、他者や社会との関わりの中で規範意識や相手を思いやり、尊重する態度を育みます。④児童会活動を中心に異学年交流を充実させ、互いを思いやる心を育てます。
健やかな体	体力向上を目指し、年間を通して休み時間等に、仲良く元気に遊べる子どもたちを育てる。また、体育科や健康安全体育的行事の教育課程の改善を図る。	①「ロング休み」を継続し、児童が伸び伸びと外遊びができる環境と時間を保証して、体力の向上を図ります。②家庭科や保健の学習を中心に、健やかな体を経る食や睡眠といった生活習慣に関心をもたせ、子どもたち自ら健康作りに取り組めるようにします。③集会等で子どもたちががすんで楽しく体を動かせる活動に取り組んでいきます。
社会に開かれた教育課程	学校の情報を積極的に公開していくためにホームページの有効活用や学校便りの工夫に取り組む。授業参観・懇談会の充実を図る。	①引き続き学校がよりに各学年の活動を掲載したり、学校ホームページの更新により児童の活動の様子を伝えたりすることで、学校の取組や子どもたちの活動を公開していきます。②学校説明会、保護者懇談会等を充実し、学校評価や学習状況調査の結果などの客観的資料等を活用して、保護者が参加したいと思えるような学校の運営に努めます。
学校運営協議会	学校運営協議会を中心にして、学校経営が地域・PTA組織との積極的な連携のもと行われるようにしていく。	①年間3回、学校運営協議会を開き、子どもたちの学力や学習状況、生活意識や態度等について幅広く議論していただき、同時に学校運営についても意見をいただき改善を図ります。②学校運営協議会委員には、今年度は40周年記念行事や学習指導要領等についての意見・評価をいただき、改善にいかしていきます。
特別支援教育	特別な支援が必要な子どもについて、そのニーズを保護者と共有し、それぞれの子にあった教育が行われるよう教育課程や施設の充実を図る。	①個別支援学級の教育環境改善をさらに進め、個の特性に応じた指導ができるようにしていきます。②一般学級、個別支援学級共に学習のめあてを示すなど、見通しをもち学べる支援を行います。③職員会議等で、児童の情報交換を行い、全職員で支援を必要とする子どもたちを支えていきます。
集団宿泊体験活動	自然の中での集団宿泊体験を通して、豊かな成長に欠かせない人間関係づくりや社会性の基礎が育つよう、学校行事全体の教育課程を見直す。	①自然の中での集団宿泊を通して、人間関係づくりや社会性の基礎を培うため、4年生で1泊2日、5年生で2泊3日(中央青少年交流の家)、6年生で4泊5日(妙高青少年自然の家・修学旅行と)を実施します。②「遠足・集団宿泊的行事」の目的・実施後の振り返り大切に、子どもたちが主体的に学べるようにします。

人材育成・働き方改革	経験豊かな教員の助言のもと、中堅教員がミドルリーダーとしてリーダーシップを発揮し、経験の浅い教員を育てる組織を作る。また、学校規模や職員構成に応じた組織の在り方や業務内容の改善を図る。	①「伊勢山ファースト」を掲げ、子どもたちのために、学校運営、教育活動を進めていく上で何を大切にしていきたいかを明確にし、教職員のベクトルをそろえるとともに、参画意識を高めます。②計画的な校内研修等の実施により、危機管理能力、コンプライアンス、児童生徒指導等、教職員の力量を向上させる取組を行います。③会議の精選や組織の簡略化を行い、誰もが生き生きと働ける職場作りに努めます。
食教育	食育推進校として、子どもたちの豊かな心と体の育成を目指して、食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにしていく。	①生活科や総合的な学習の時間でのお米や野菜を育てる活動等を通して、生産の大変さ、食の大切さなどが実感できるように努めます。②地産地消の活動に取り組み、給食で地元産の食材を扱い、それらを給食だより等で周知していきます。③給食の時間や家庭科の時間を中心に、食のマナーや望ましい食習慣を身に付けさせるように努めます。
いじめへの対応	児童一人ひとりが安心安全に学校生活を送れるような環境づくりをしていく。全教職員で児童の情報を共有し、各外部関係機関と連携を図っていく。	いじめについて①法令に則り、「いじめ」を認知し、情報を共有できる体制を強化します。②児童会を中心に、子ども会議と連携して、子ども達自身が安心して通える学校を作っていく環境づくりを行います。③学校カウンセラーをはじめ、さまざまな外部機関との連携を密にし、適切に対応します。